

市政に対する

一般質問

6月定例会の一般質問は6月14日・15日・18日・19日の4日間行われ、14人の議員が市政全般に対する諸問題について質問をしました。紙面の都合上、主なものを掲載しました。なお、詳細については、8月下旬発行予定の会議録（市役所市政情報コーナー、図書館及び地域公民館、市議会ホームページなどで閲覧可能）をご覧ください。

郷土博物館

弾力的な郷土博物館の運営を

高橋弘行
(しんりよく会)

問 映画「のぼうの城」を観て観光目的で郷土博物館へ訪れる方が増え、入館者は学習目的から観光目的に移行するものと思われる。そこで館の運営を弾力的に行えるよう所管を教育委員会から市長部局に移管できないものか。

答 博物館の目的は市の貴重な歴史遺産を収集・保管し、調査・研究成果の展示事業により、市民の教育・学術・文化の向上に寄与することを目的としている。また、博物館法では「公立博物館は当該博物館を設置する地方公共団体

の教育委員会の所管に属する」としている。現状のまま、教育委員会の所管とすることが適切であると考えている。

問 入館料収入をアップさせるため、別料金での特別企画展を開催できないか。

答 映画の公開に合せ、多くの市民に忍城の歴史をより深く知っていただくため、通常の入館料で運営していきたい。

水 治

武蔵水路改修に伴う要望状況

柿沼貴志
(誠会)

問 武蔵水路の工事の進捗と今後の進め方は。

答 全長14・5km中、4kmの区間の工事が進められている。平成24年度は5月に荒木、太

田及び佐間地区など6地区を対象に水資源機構が工事説明会を開催したところである。

問 武蔵水路改築連絡協議会からの要望が水資源機構あてに出されているが、どのような要望内容なのか。進展のあったもの、進まないものとは何か。

答 治水対策や県道の拡幅及び橋梁の架け替えなど12項目に及ぶ要望を行っている。回答は内水排除機能の強化や排水施設を一元管理すること。また、県道に右折レーンを検討することや橋梁幅を最低5mとして架け替えるなど一定の成果が見られた。しかし、水の多目的利用は水利権の問題があり満足な回答を得られていない。引き続き水資源機構への要望を継続したい。

通 交

高崎線踏切の安全対策は

石井直彦
(しんりよく会)

問 高崎線J R行田駅から鴻巣よりの沓里山町地内の踏切

について、清水町からの右折車と東からの直進車とのトラブルが多発し、踏切事故に繋



踏切箇所

がる恐れがある。本市の安全対策はどこまで進んでいるのか。ちなみにJ R行田駅西側の熊谷市域の踏切では道幅が広いにもかかわらず、既に一方通行となっている。

答 高崎線の踏み切りに接する市道の安全対策については平成23年12月に現地調査を行った結果、通行規制の必要性が確認されたため行田警察署に一方通行規制を求める要望書を提出したところである。進捗を警察署に問い合わせたところ、一方通行の交通規制をした場合には近隣住民の生活への影響が大きいことが予想されるため、現在、行田駅西側で同様な道路環境にある地点の交通規制を参考に検討しているとのことであった。今後も道路規制を管轄する警察署に働きかけ、安全対策の早期実現に努めたい。

施設管理

老朽化インフラへの対応は

小林友明
(新政策研究会)

問 インフラの老朽化が急速に進行している。橋の管理は国や自治体の責任で行うものであり、国土交通省が進める「橋梁長寿命化修繕計画策定事業」は、従来の事後的修繕による維持管理から予防保全管理に転換を図る施策である。本市では、減少する公共事業予算の中で当該計画を策定して本年から取り組んでいくと聞いているが、計画の具体的な内容はどのようなものか。

答 この施策は橋梁の損傷が顕在化する前に修繕を実施し、橋梁の長寿命化や維持管理費の削減を図ることで投資額を平準化して世代間の負担を最小限に抑える目的がある。策定した計画(案)では15m以上の53橋が対象であり、継続した事業を推進するため計画期間を50年で試算して5年毎に見直しを行い、また、国の補助金を活用して予算の平準化を図りながら修繕・架け替えを実施していくものである。